

第5章 今後の検討事項

平成29年度の当会議では、下水道技術ビジョンのフォローアップの一環として、下水道事業における技術的な課題・ニーズの分析、ロードマップの一部改定や重点課題の選定、事業主体の技術導入に向けた課題の分析や、技術開発・導入促進方策の検討を行った。

当会議では、引き続き、技術開発・導入促進方策を検討していくため、平成30年度の検討事項を平成29年度第2回会議で審議した。

(1) 平成30年度の当会議における検討事項

検討課題別の平成30年度の検討事項を表5-1のとおり整理した。

表5-1 検討課題別の平成30年度の検討事項

検討課題	平成30年度の検討事項
柱①「技術ニーズの把握と発信」	技術ニーズ調査は、下水道事業者へのヒアリング調査と各種会議における議題収集を継続して実施(全国アンケート調査の実施は一旦休止)
柱②「技術シーズの把握と発信」	各種会議における議題の情報共有方法について検討
	技術シーズ調査は、平成29年度と同様に実施
	新技術の要求性能の確認と需要量の把握
柱③「ニーズとシーズの架け橋」	プロジェクトGAMと連携し、GAMデータベースの充実を図る
柱④「国などの技術情報の共有(グローバルとローカルの架け橋(1))」	B-DASH技術の普及展開状況調査を平成29年度と同様に実施し、結果を公表
	B-DASH技術について、分かりやすい技術情報の提示(技術概要、メリット、デメリット、導入検討のタイミング、導入事例)を進め、自治体、民間企業等への情報共有方法を工夫
	B-DASH技術のフォローアップ(効果、安定性、維持管理性)と情報の提示
	他団体が保有する技術情報について情報収集し、情報共有方法を検討
柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」	B-DASH技術の普及展開状況を平成29年度と同様に実施し、結果を公表【再掲】
	プロジェクトGAMと連携し、GAMデータベースの充実を図る【再掲】
1) 情報、ノウハウの共有による技術導入支援	分科会において、新技術導入上の課題や解決策を深掘り(競争性の確保を目的とした技術性能の明確化のための技術開発スキームの検討等)
柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援(グローバルとローカルの架け橋(2))」	
2) 小都市等の下水道事業をサポートする技術の開発・普及方策	下水道事業者へのヒアリング調査を継続して実施
柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」	ロードマップの改定検討
	ロードマップ重点課題の検討・公表
	ロードマップの進捗確認作業開始

平成 30 年度の当会議において、引き続き、下水道技術ビジョンのフォローアップの一環として、下水道事業における技術的な課題・ニーズの分析、ロードマップの一部改定や重点課題の選定、事業主体の技術導入に向けた課題の分析や、技術開発・導入促進方策の検討を行っていくこととしている。

なお、新規の検討事項として、「新技術の要求性能の確認と需要量の把握」については、下水道事業者が求めている新技術について、その要求性能を確認するとともに、全国的な需要量を把握し、民間企業等の開発者に対してその結果を公表することにより、開発意欲を促し、技術開発を促進することを狙っている。また、「B-DASH 技術の技術情報提示・フォローアップ」については、新技術の実績、安定性、不具合を含めた維持管理性を明らかにして提示することにより、B-DASH 技術の技術選択を容易にすることで技術導入を促進することを検討する予定である。さらに、平成 27 年 12 月の下水道技術ビジョンの策定から 3 年目となるため、「ロードマップの進捗確認作業を開始」し、下水道技術ビジョンに位置づけた技術の開発状況を把握するとともに、今後取り組んでいくべき技術開発項目等の検討を行う予定である。